

海の向こうにでて見れば

(8) 旅もいろいろ

石田 佳子

仕事や家事などに追われている時、「もしも時間に余裕ができれば、思う存分旅をしたい」と思うことが、あるのではないのでしょうか。私も現役時代は「自由気ままに知らない土地を旅してみたい」と夢みていました。周りを見ても、旅行が趣味という人は少なくありません。しかしその内容を見ると、旅にもいろいろあり、その人の価値観などが反映されているように感じます。そこで今回は、旅を4つのタイプに分けて、それぞれの旅の仕方や目的の違い、メリットやデメリットなどを検討します。そして最後に、心の旅についても考えてみたいと思います。

現実の旅 ① 団体ツアー

修学旅行や慰安旅行など、団体ツアーは、手軽で安心な旅の仕方です。移動や宿泊の代金が含まれている場合は、情報収集や予約の手続きなどを省略できるでしょう。また、スケジュールが決められている場合は、「いつ・どこで・何をするか？」に頭を悩まさずに済みます。添乗員やガイドなどが同行する場合は、万一トラブルが起きても対処してもらえるので心強いです。効率的な移動計画が組み込まれていることが多いため、限られた時間内に有名な観光スポットなどをザッと観てまわりたい人には、絶好の方法と思われる。

しかし、団体を行動するため、「集合時間や規律を守らなければならない」「同じツアーの参加者以外の人たち（地元の人や他の旅行者など）と交流する機会が持ちにくい」「観光客向けの飲食店や土産物屋へ連れて行かれがち」といったデメリットもあります。

私は大学生の時、1ヶ月程かけてヨーロッパ諸国をまわる団体ツアーに参加しました。移動と宿泊以外はすべて自由行動という格安のツアーでしたが、集合時間などに縛られて忙しく、駆け足で念願の美術館巡りを果たした記憶があります。ツアーの参加者には同年代の人が多く、(幸運なことに)うち解けて楽しく過ごせましたが、長い時間行動を共にするため、同行者同士で仲違いなどしたら、旅の楽しさが半減するかもしれません。

結局、団体ツアーは旅の目的（見たい物やしたい事など）が曖昧であるか一般的で、指示を守って「他人に迷惑をかけずに行動する」のが苦にならない人や、（長期の場合）他人とそこそこ上手く付き合える人にとっては、楽で安心な旅の仕方と言えそうです。一方、「私は～がしたい！」とか「こういう風にしたい！」といった希望やこだわりを旅に反映させたい人にとっては、窮屈な上に割高な旅の仕方になるでしょう。個人的には、「～がしたい！」という希望や欲求、そして思い入れこそが、旅を豊かにする大切な要素なのに…と思います。

現実の旅 ② 高級志向の個人（グループ）旅行

日常から離れて、普段は出来ないような贅沢を味わう、旅の仕方です。個人の希望や欲望を存分に反映させるため、個人（一人 or カップル）や気の合う仲間同士のグループで、有名な場所へ行くことが多いでしょう。例えば、高級な旅館やホテルに泊まったり、買い物やグルメを満喫したり、専属のドライバーやガイドを雇って観光名所を巡ったり、豪華客船でクルーズをしたり、ファーストクラスで世界を一周したり……「サービスを受ける側」として快適さや豪華さを味わいたい人には、満足できる体験になると思います。

しかし、相応の出費は覚悟しなくてはなりません。有名な観光地は団体客で混んでいる上、宿泊費も食事代も割高です。人気のホテルやレストランは、予約しておいた方が無難です。そのような場所を訪れて良質なサービス（特別扱い）を受けようとする訳ですから、事前にしっかり情報を得て、予約などの手続きをして臨むのが良いでしょう。

情報収集や手続きなどには、ある程度の語学力や情報収集力が必要です。また、二人以上で旅をする場合は、それらの「雑用を誰がするか？」が問題になるかもしれません。協力し合って役割を分担できる場合は良いのですが、特定の人に負担が集中すると、不平不満が生じます。例えば「連れて行く人と連れて行ってもらう人」に役割が固定してしまうと、前者には相手が「負んぶに抱っこ横着者」に見え、後者には相手が「威張りん坊の仕切り屋」に見えるものです。

マレーシアに住む日本人の退職者には、この旅の仕方を好む人が多いようです。引退しているので時間はたっぷりあるのですが、近隣諸国への短期旅行が人気です。数週間から1ヶ月程かけて北米やヨーロッパ諸国を周遊する場合でも、一ヶ所に留まることは少なく、事前に練った綿密なスケジュールを、弾丸ツアーのように消化して行きます。ホテルや食事は一流の所を選びますから、予算を節約するためというより、価値観によるものと思われます。

私も現役時代はこのような旅行が主でした。まとまった休みがとり難かったこともあり、近場の温泉などに1,2泊して、美味しい物を食べ、お土産を買って帰るのです。地元の人と交流する機会は乏しく、サービスを受ける時だけですが、「いつもと違う場所へ行き、気分転換すること」が目的だったので、当時は疑問にも思わず満足していました。

しかし今思うと、目的が明確なだけに「綿密な旅程」や「効率的な行動」に捕らわれ易く、「予定調和的・答え合わせ的な展開」に留まりがちな旅の仕方のように感じます。つまり、「旅の醍醐味は、思いがけない発見や出会いにある！」と考える人にとっては、物足りない旅の仕方になるかもしれません。

現実の旅 ③ 庶民志向の個人旅行

その時々気分や体調や出会いによって、行き先や行動を決める、旅の仕方です。時間に余裕がないとできない反面、長期化すると目的が漠然とし易く、流動的・場当たりのになりがちかもしれません。事前に余り計画を立てないか、立てても現場でどんどん変更して行きます。一人やカップルなどの少人数で行うことが多く、「いつ・どこで・何をするか？」だけでなく「何もしない」や「(カップルの場合は)別行動する」といった選択肢も含まれます。

私は最近このような旅が好きになり、夫と二人で同じ土地に、少なくとも約2週間は留まることが多いです。スケジュールは詳しく決めず、時には(普段の生活と同じように)別行動をとったりもします。有名な観光地やレストランより、市場や屋台や公園などその土地の人々が集まる場所へ足繁く通います。

いつからなのか、輝かしい物や事(建築物や美術品や芝居や美食などの文化)だけでなく、辛く哀しい物や事(戦争の痕跡や庶民生活や貧困などの現実)も知りたいと思うようになりました。むしろ後者に触れることで、深く心を動かされることが多いからです。

私たちは、ある時ある国に生まれたことで、さまざまな制約や恩恵や……多様な影響を受けています。生まれながらに恵まれた環境を享受している(ように見える)人もいれば、そうでない(ように見える)人もいるという現実。。まるで異なる環境で生きていても、知性や感情や尊厳を持った同じ人間であるという事実。。もし自分がその立場なら、どう生きたらだろう?との疑問。。。いろいろな人に会って、その生活や人生を垣間見ることで、自分の有り様(恵まれた所やそうでない所)が相対化され、改認識される気がするのです。

しかし、このような旅にもデメリットはあります。期間が長くなるほど予算の管理が必要

ですが、格安の宿には（盗人や害虫の侵入など）セキュリティ上の不安があります。また、屋台などの安い食事は、衛生状態に問題があることもあります。さらに、発展途上国には所謂「二重価格」があり、外国人には地元民の数倍の値段をふっかけて当然とする風潮もあります。安全の確保や体調の維持に自信が持てない場合や、自分が丁寧に扱われないことへの抵抗感がある場合には、辞めておいた方が良いでしょう。

現実の旅 ④ ひとり旅

旅の仕方も期間も目的も、自分で決めて管理する、旅の仕方です。単独行動が苦にならない人には自由で気楽な反面、そうでない人には不安や寂しさを伴う旅になるでしょう。すべて自力でしなければならぬため、判断力や実践力を磨いて成長するには、良い機会になるかもしれません。例えば、一人で居ると他人から声をかけられ易いので、「誰と・どうやって・どこまでつき合うか？」の判断を誤らなければ、思いがけない出会いに恵まれるかもしれません。

また、一人で過ごす時間が長いと内省的になりがちですから、「自分と向き合う」機会を得るには、最適の方法かもしれません。話しは少しづれますが、私は（選択を誤って女子大に入った）大学生の頃から、多勢で「つるむ」のが苦手になり、（当時は裏ぶれた所もあった）横浜の街を散々一人で歩きまわって来ました。歩きながら得る経験や思い浮かべるイメージに大した意味はなかったかもしれませんが、あの時間がなければカウンセラーになることもなかっただろうと感じています。

しかし、（特に女性の）ひとり旅には、危険も多いため、身を守るための知識や情報を得ておくことは、不可欠です。また、常に危険を察知できるよう心身を整え、アンテナを立てておくよう、心がけたいものです。例えば、直観的に『理由は（わから）ないけど、何となく嫌だな』と感じる人や場所があったら、近づかない方が良いでしょう。

心の旅

カウンセリングをしていた時、私はよく「これは心の旅だなあ」「旅に同行させて貰っているようだ」と感じました。そして心の旅にも、現実の旅と同じくいろいろな仕方や目的や到着点があるものだと思います。

例えば、「何処そこへ行った（ことがある）よ！」と自慢するためだけなら、話はとても簡単なのです。（業績や肩書きで自己紹介をする人と似ています。）しかし、本気で「自分と向き合う」旅をすると、その人は（考え方は勿論のこと雰囲気や外見まで）変わります。と

は言え、旅をするタイミングやコンディション、同行者の存在なども関係して来るため、ちよっとヤヤコシイのですが。。

現実の旅でも、新しい土地に身を置き、地元の人と同じ物を食べて、同じ様に暮らしてみただからと言って、すぐに「自分」が変わる訳ではありません。むしろ最初は、新しく体験している事との違いに照射される形で、「自分が持ち込んだもの」や「自分の中にしみ込んでいるもの」を再確認するため、違和感や不全感に襲われるかもしれません。

それがいつしか(周りの人や営みなどが「新しい、異質なもの」に感じられなくなった頃)、「自分」が変わっていることに気づく(自分であって自分でない、再編成された自分と出会う)という感じがします。マルセル・ブルーストという作家が、『発見の旅とは、新しい景色を探すことではない。新しい目で見ることなのだ』という言葉を残しています。現実の旅と心の旅は、案外深いところで、つながっているのかもしれません。